

平成 22 年 5 月 24 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19560658

研究課題名（和文）キリコ祭りを通してみる奥能登地域の景観構造の研究

研究課題名（英文）A Study on Scenery Structure of Okunoto Area through Analyses of Kiriko Festival

研究代表者

熊澤 栄二（KUMAZAWA EIJI）

石川工業高等専門学校・建築学科・准教授

研究者番号：30321425

研究代表者の専門分野：建築史・意匠

科研費の分科・細目：5304

キーワード：環境形成史、地域景観史、建築論、民俗学、宗教史、キリコ祭り、奥能登珠洲

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、潜在的に潜む地域特有の場所構造を基として修景・保存および地域景観形成の指針を明らかにし（基礎研究）、その研究成果を基として実際の景観整備手法の開発を目的とする（応用研究）。

申請研究では、基礎研究の第一段階として石川県能登半島最北端に位置する珠洲を事例とした場所構造の解明を目的とする研究を計画している。

研究活動としては以下の3つ種類について実施している。

(1). 祭礼調査

須須神社に由来の深い地区のキリコ祭りについて随行調査を行い、記録を収集している。

(2). ヒアリング調査

祭礼調査のプレ調査としての各部落単位でのヒアリング調査に加えて、公民館区 10 地区の珠洲の祭礼状況についての調査を行っている。

(3). フォーラムおよび展示会

「すず再発見フォーラム」と題して住民との祭礼文化の魅力の発見と今後の維持についての意見交換会を3回に亘り実施している。

2. 研究の進捗状況

(1). 祭礼調査

平成 19 年度は、雲津、上戸、正院、鶴島、引砂、狼煙、大屋、川浦、折戸、高屋の祭礼調査を計画していたが、折戸地区については日程調整が困難ため次年度持ち越しとした。平成 20 年度は高屋地区（10 月 10 日）、折戸地区の 5 地区を対象とした秋季祭礼調査を実施した。但し、本年度の調査対象となつて

いた折戸地区は祭礼前日に中止が決定になり来年度持ち越し調査となった（10 月 11 日）。平成 21 年度は、寺家地区および馬縹地区の祭礼調査を行い、申請計画当初に予定していた全ての地区の調査を終了した。

(2). ヒアリング調査

平成 19 年度では、上述の祭礼調査対象 11 地区の事前調査として地区の代表者にヒアリングを行い、地区の秋季祭の歴史、近年の組織、キリコ巡幸の順路等の確認を行った。併せて、祭礼日に振る舞われる「ヨバレ料理」の記録を採取している。平成 20 年度は、狼煙地区（11 月 26 日）、寺家地区（11 月 27 日）、熊谷地区（2 月 4 日）の 3 地区にヒアリング調査を行い、昨年度の補足調査とした。

採取したデータをもとに時系列筠に神輿巡幸ルートを記した祭礼マップを作成中である。

(3). フォーラムおよび展示会

平成 19 年度は珠洲でも初となる本格的なキリコ祭りに関するフォーラム「すず再発見フォーラム」を企画し、第 1 回の「キリコ祭り、を知る」を珠洲市および珠洲市教育委員会の協力により実施した（11 月 17 日）。平成 20 年度は、キリコ文化を中心としたフォーラムを開催し、キリコ会館・元館長の藤平朝雄氏をはじめとして奥能登塩田村組合長の横道嘉弘氏、羽黒神社宮司の高山哲典氏、金沢星稜大学の堂下恵講師を招聘し「キリコ祭りを深く知る」フォーラムを開催した（9 月 16 日）。平成 21 年度は、「キリコ祭り囃子写真展」（12 月 20 日 - 27 日）祭礼の写真を中心に地域住民に紹介し、併せて祭礼継続についての住民の声を集約した。なお、今回は珠洲市

が企画した「奥能登キリコ囃子フォーラム」と共同開催を行った。

3. 現在までの達成度

当初の計画以上に達成している。

計画当初では、祭礼調査体調地 11 地区での調査およびヒアリング調査を目指していたが、平成 20 年度に既にほぼ予定を終了して、調査結果を踏まえて平成 21 年度からは新しい課題に取り組みを開始している。

a. キリコ調査結果のデータベース化

調査結果をデータベース化する試みとともに、キリコ本体の 3 次元測量とその 3 次元モデル化について、(株)国土開発センターとの共同研究を開始している。

b. キリコ祭りに関する住民周知の活動

計画当初において企画化されていなかった市民参加型のフォーラムの 3 回の実施により、学術的成果をより広い範囲で住民と共有するとともに、今後の祭礼の保存継承活動についての具体的な問題把握を行うことができた。

さらに、地元の写真家との連携により、『キリコ囃子写真展』を開催することができ、祭礼における地域差などを視覚的に表現することができた。

c. キリコ祭り副読本企画

ヒアリング調査を基とした研究とともに、実践的に町づくりのツールとして副読本の作成企画を珠洲市および珠洲市教育委員会と平成 22 年度より開始することになっている。この資料の完成により、研究成果を活かした地域貢献とともに、新しい観光産業に寄与したい。

4. 今後の研究の推進方策

ヒアリング調査した結果については、祭礼文化衰退について分析を経て、平成 22 年度には珠洲市教育委員会および珠洲市企画財政課とともに小中学生対象の地域教育用副読本の基礎資料として活用される予定である。

さらに、調査データベースの成果および 3 次元測量で得られたデータを一般公開する『ヴァーチャルキリコ会館』構想を平成 22 年度より珠洲市とともに整備する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

熊澤栄二、美作羽衣、「寺家キリコ祭り」を通してみる風景に関する研究 奥能登修験から導く宗教的世界構造、日本建築学会北陸支部、50 巻、269-272、2007、査読

無

熊澤栄二、美作羽衣、「寺家キリコ祭り」を通してみる風景に関する研究 II 中世珠洲荘園制度からみる風景構造 1、日本建築学会北陸支部、51 巻、505-508、2008、査読無

熊澤栄二、今村友里子、「寺家キリコ祭り」を通してみる風景に関する研究 近世珠洲における風景視 1、日本建築学会北陸支部、52 巻、577-580、2009

熊澤栄二、四方葵、奥能登キリコ祭りを通して町づくりの研究、日本建築学会北陸支部、52 巻、373-376、2009

〔学会発表〕(計 4 件)

熊澤栄二、美作羽衣、「寺家キリコ祭り」を通してみる風景に関する研究 - 泰澄伝承にみる宗教的世界構造 -、日本建築学会、福岡、474-478、2007、査読無

熊澤栄二、美作羽衣、「寺家キリコ祭り」を通してみる風景に関する研究 IX 中世珠洲荘園制度からみる風景構造 2、日本建築学会、広島、416-417、2008、査読無

熊澤栄二、今村友里子「寺家キリコ祭り」を通してみる風景に関する研究 近世珠洲における風景視 2 -、日本建築学会、仙台、531-532、2009

熊澤栄二、四方葵、奥能登キリコ祭りを通して町づくりの研究 II 祭礼運用から導くキリコ文化圏、日本建築学会、仙台、409-410、2009